

巻 頭 言

相愛大学人間発達研究所は、人間発達学およびその隣接領域に関する学術研究や実践活動を推進して、学術文化の発展に寄与するとともに、教育の向上や子どもたちの心身の発達支援に資することを目的として、2008年4月に設立されました。122年の長い歴史と伝統を持つ相愛大学の中では一番新しい組織です。研究所の活動は、具体的には、「保育や教育による心育」と「食物や栄養からの食育」による「心と身体の発達」を中心にして、人の健全な心身の発達の推進を研究し、新しい人間発達学の構築をめざしています。

そしてここに、相愛大学研究所の念願の研究論集「人間発達学研究」の創刊号を発刊することができました。投稿されました論文数も当初の予想を超える多さでした。これも、研究員の方々のご努力と熱いご関心の賜と感激いたしますとともに、深く感謝いたす次第です。

本研究所は、研究誌の刊行とともに、「講演会」も開催いたしております。一昨年度は11月2日に「今始まった特別支援教育の課題」というタイトルで、東京学芸大学教授の上野一彦先生に発達障害に関わる問題を講演していただきました。特別支援教育の取り組みについて、深い理解ができました。本年度は、9月26日に女子栄養大学の武見ゆかり教授の基調講演の後、「産官学でつくりあう食育」のシンポジウムを開催しました。その講演会は、産官学（産業界・地域社会・大学）が連携して、食育を推進していこうという熱気あふれる雰囲気の中で行われました。

今後、本研究所の活動は、心育と食育を中心軸にして、子ども発達学科と発達栄養学科の教育と諸活動のもと、大学の研究所として人間発達研究に貢献し、この「人間発達学研究」の刊行の継続、また「保育と教育」や「食育」に関わっての講演会などで、「地域支援」を推し進める研究所として進んでいきたいと考えています。人間発達研究所の活動によって、相愛大学の知名度をさらに広めることができれば、研究員の先生方共々大変嬉しいことでもあります。

ここに「人間発達学研究」の刊行を喜ぶと共に、今後の皆様方の暖かいご支援を賜りますように、お願いする次第です。

終わりにになりましたが、刊行にいたるまで色々と細かいことにご配慮いただいた運営委員の先生方に厚くお礼申し上げます。

2010年1月15日

人間発達研究所長 塩見邦雄